

かしまししゃかいしほんそうごうせいびけいかく
鹿島市社会資本総合整備計画

さがけん かしまし
佐賀県 鹿島市

平成25年3月

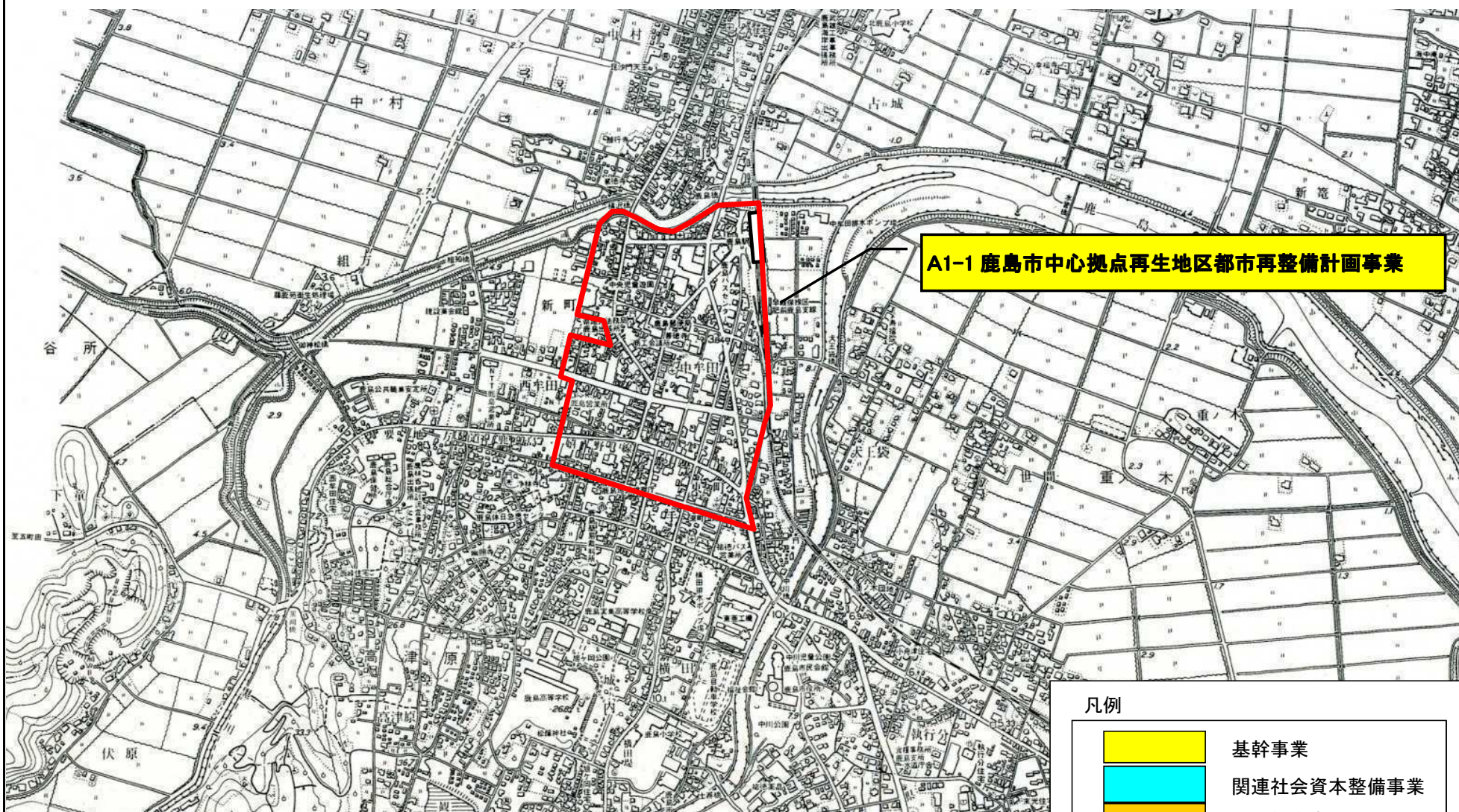
社会資本総合整備計画

平成 25 年 2 月 25 日

計画の名称	人とまちを結び、まちなかコミュニティを創造するまちづくり														
計画の期間	平成25年度 ～ 平成26年度 (2年間)				交付対象	佐賀県鹿島市									
計画の目標	<p>市民が集い、歩きたくなる都市の形成</p> <p>○中心市街地の空洞化対策として、空き商業施設等の既存ストックを有効利用し、社会福祉・子育て支援等の公的施設を集約することで、コンパクトシティの形成と、まちなかへの誘発効果によるにぎわいを創出する。 ○まちなかを歩いて楽しめる魅力ある空間をつくるため、ピオ（官民複合施設）周辺を結ぶ新たな回遊軸の形成を図る。 ○高齢者や障がい者にやさしい、歩いて暮らせるまちづくりを実現するため、中心商店街と連結する肥前鹿島駅周辺を整備、快適な空間形成を図る。</p>														
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 「中心市街地への歩行者数」を800人（H24）から1,000人（H26）へ増加 中心市街地活性化による「空き店舗率」を12.1%（H24）から12.1%（H26）へ維持 市民アンケート調査による「中心市街地の満足度」を18.4%（H24）から21.0%（H26）へ増加 														
定量的指標の定義及び算定式									定量的指標の現況値及び目標値		備考				
								当初現況値 (H24当初)	中間目標値	最終目標値 (H26末)					
	官民複合施設整備による中心市街地の歩行者数							800人		1000人					
	中心市街地活性化に伴う商業施設の空き店舗率							12.1%		12.1%					
	市民アンケート調査による「中心市街地」に対する満足度							18.4%		21.0%					
全体事業費	合計 (A+B+C)	988百万円	A	988百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 A(提案事業分)+C / (A+B+C)		0.0%				
交付対象事業															
A1 基幹事業（市街地整備）															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H25	H26	H27	H28	H29		
A1-1	都市再生	一般	鹿島市	直接	鹿島市	鹿島市中心拠点再生地区都市再整備計画事業		鹿島市						988.0	
合計													988.0		
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H25	H26	H27	H28	H29		
合計													0.0		
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考				
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H25	H26	H27	H28	H29		
合計													0.0		
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考				

(参考図面) 地域都市リノベーション事業

計画の名称	1 人とまちを結び、まちなかコミュニティを創造するまちづくり	交付対象	佐賀県鹿島市
計画の期間	平成25年度 ~ 平成26年度 (2年間)		



A1-1 鹿島市中心拠点再生地区都市再整備計画事業

凡例

	基幹事業
	関連社会資本整備事業
	効果促進事業

都市再生整備計画

かしましちゆうしんきよてんさいせいちく
鹿島市中心拠点再生地区
(地方都市リノベーション事業)

さがけん かしまし
佐賀県 鹿島市

平成25年3月

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	佐賀県	市町村名	鹿島市	地区名	鹿島市中心拠点再生地区(地方都市リノベーション事業)	面積	35	ha							
計画期間	平成	25	年度	～	平成	26	年度	交付期間	平成	25	年度	～	平成	26	年度

目標

大目標:人とまちを結び、まちなかコミュニティを創造するまちづくり

目標1:市民が集い、歩きたくなる都市の形成

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針(都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む)

本市では、昭和50年代から始まった行政機関の郊外移転や、近年では中心市街地を迂回する国道207号バイパスが全線開通。これに伴う郊外型商業施設の立地により、肥前鹿島駅を中心とした中心市街地の空洞化は深刻で空き店舗も増加し、まちの活力は低下している。また、市役所周辺に立地する福祉会館等の公共施設は老朽化し、更新時期を迎えている状況にある。

こうした、これまでに蓄積された多くの課題を解消し、県南西部地域における中核都市としての復活を目指すべく、本市は平成24年6月に「鹿島市まちづくり推進構想(鹿島ニューディール構想)」を策定した。同構想は、計画期間を10年とし「安心・安全のまちづくり」・「交通体系の整備」・「公的施設の再整備」・「産業振興」の4つの柱で構成され、ソフト・ハード事業のそれぞれが連携し、まちの活力回復を目指すものである。

市街地整備に関しては、柱の1つである、公的施設の再整備(鹿島市シビックセンター再整備構想)を掲げており、本市に立地する主な公的施設の「役割と機能」を見直し、個々の施設としての整備を行ないながらも、全体として連携の取れた再配置を実現するものである。再配置エリアを、市庁舎周辺(中川コアエリア)とJR肥前鹿島駅周辺(中心市街地エリア)の2エリアに分け、それぞれの役割に応じた配置により、それぞれの課題克服を目指すものである。

市庁舎周辺においては、県の出先機関と市の防災部局を集約、本市防災の拠点となる「危機管理センター」の建設や、老朽化した市民会館を改築し、新たな市民の交流の場「市民交流センター」として整備する。また、現在、市庁舎周辺にある再配置対象施設の中でも特に、多くの高齢者が利用する福祉会館(老人福祉センター)の老朽化対策と、子育て支援施設の充実が市民の多くから求められており、これら2つの機能の再配置と、これによる波及効果の拡大が喫緊の課題となっている。

このような状況において、同構想実現の第1歩として、本計画では、肥前鹿島駅を中心とした中心市街地を「中心拠点地区」と位置付け、中心市街地の既存ストックを活用し、中心市街地に公的施設(高齢者福祉、子育て支援)を再配置、商業施設と公共施設等の都市機能を集約することで、コンパクトなまちづくりを実現。

併せて、空き商業施設周辺における新たな回遊路の整備や中心市街地と連結する鹿島駅周辺の整備を図ることにより、中心拠点区域を人々が歩きたくなる魅力あるものとする事で、中心市街地の活性化と交流人口の拡大を図る。

まちづくりの経緯及び現況

- ・本市は、佐賀県南西部に位置し、東に有明海、西に多良岳山系に囲まれ、日本三大稲荷神社をはじめとする歴史的な資源が多い自然と歴史に恵まれた地域であり、これまで地域資源の活用や観光を軸に地域の活性化を目指してきた。
- ・昭和40年代は、中心市街地に市役所・警察署・県の出先機関等の行政機関や金融機関・娯楽施設などの都市機能が集約し、市内外から多くの人が集まる地域コミュニティの拠点として全盛期を迎えた。
- ・昭和50年代は、行政機関の郊外移転、平成に入ると郊外型大型店舗立地等の影響により、次第に商店街は衰退、まちの活力は低下してきた。
- ・都市計画道路「鹿島駅・城内線」の整備に伴い中心商店街では、建築協定を締結、商店街のリニューアルを実施したが、中心市街地を迂回する国道207号バイパスの全線開通による沿道サービス型商業施設の立地や、高齢化・後継者不足などで中心市街地の空洞化が進行している。
- ・市民の通勤通学の交通拠点である肥前鹿島駅は、昭和5年に開設。その後増改築を繰り返してきたものの、老朽化が目立つ状況にあり、駅舎の改修が求められている。また、駅に隣接する公衆トイレは、バリアフリーに対応しておらず、利用者にとっては非常に使いづらい現状にある。
- ・本市の公共施設の多くは昭和40～50年代に建築されたもので、老朽化が目立つ状況にあり、住民サービスの維持や多様なニーズに対応するためにも、施設改修の時期を迎えている。

課題

- ・中心市街地を将来にわたって持続可能な都市とするために、空き商業施設など既存ストックの有効活用を図り、都市に必要な機能(医療・福祉・子育て支援・商業等)を集約させたコンパクトなまちづくりを図る必要がある。
- ・市民や観光客が集い、歩きたくなる空間形成のため、魅力ある回遊路を整備する必要がある。
- ・本市の玄関口である肥前鹿島駅を新たなコミュニティの拠点として活用するため、老朽化の解消のみならず、交通結節点としての機能向上やバリアフリー化等の施設整備を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

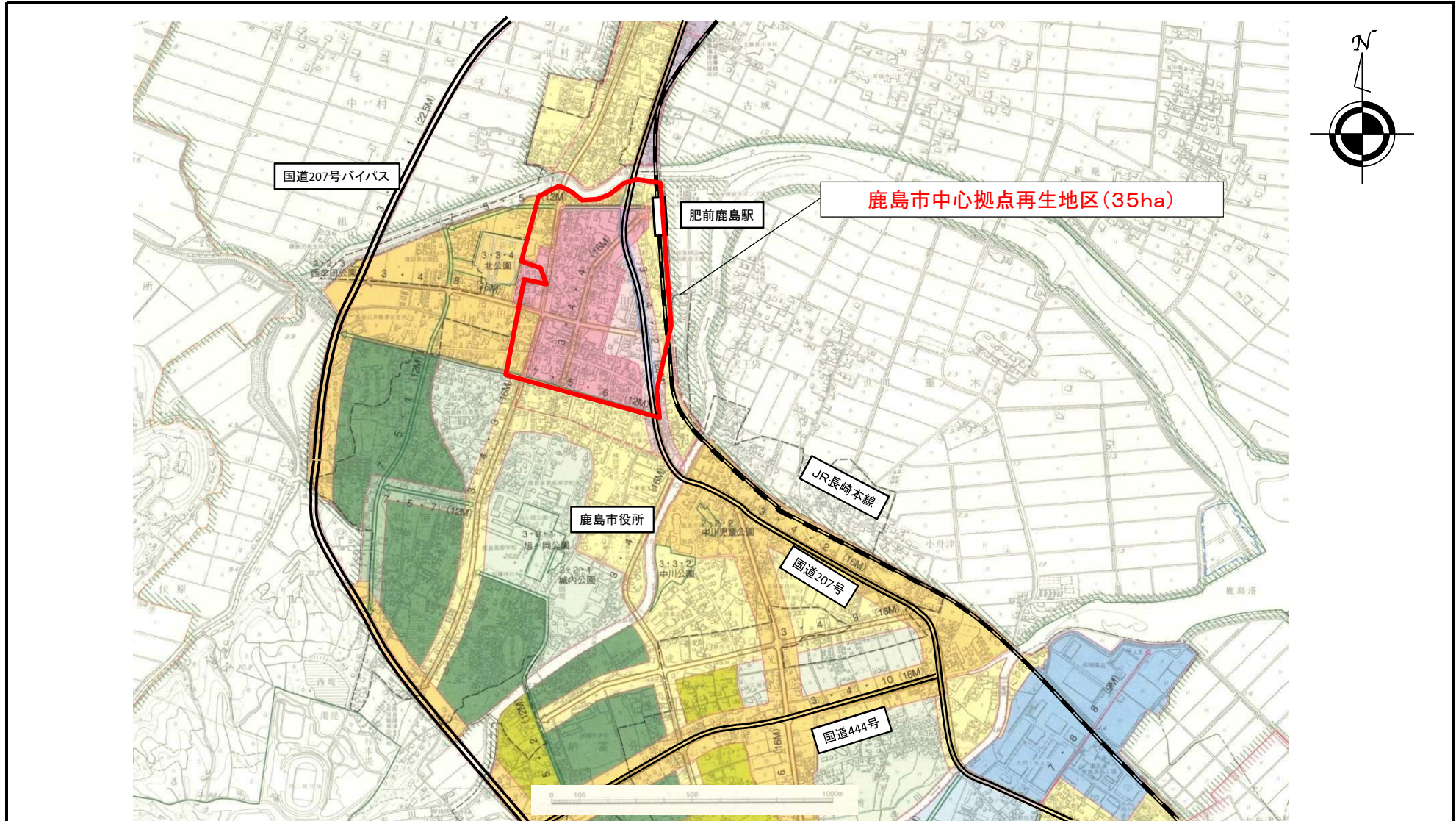
- 【鹿島市第5次総合計画】(平成23年4月)
 - ・みんなが住みやすく、暮らしやすいまちを目指し、医療・職業・住まいの充実と官民協働による連携を図る。
- 【鹿島市ニューディール構想】(平成24年6月)
 - ・これまで蓄積された多くの課題を整理し、進むべき目標を明らかにすることで市の活力の回復し、地域の中核都市を目指す。

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【市民が集い、歩きたくなる都市の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の空洞化対策として、空き商業施設等の既存ストックを有効利用し、老人福祉・子育て支援等の公的施設を集約することで、コンパクトシティの形成と、まちなかへの誘発効果によるにぎわいを創出する。 ・まちなかを歩いて楽しめる魅力ある空間をつくるため、ピオ(官民複合ビル)と「さくら通り」を結ぶ新たな回遊軸の形成を図る。 ・高齢者や障がい者にやさしい、歩いて暮らせるまちづくりを実現するため、中心商店街と連結する肥前鹿島駅周辺を整備、快適な空間形成を図る。 	<p>既存建造物活用事業(地方都市リノベーション推進施設):3階区分所有(社会福祉施設) 高次都市施設:4階区分所有(子育て世代活動支援センター) 地域生活基盤施設(イベント広場) 高質空間施設整備(肥前鹿島駅公衆トイレ改修、市道新町・中牟田線他1路線舗装改修)</p>
事業実施における特記事項	

都市再生整備計画の区域

鹿島市中心拠点再生地区(佐賀県鹿島市)	面積	35 ha	区域	大字高津原の一部、大字納富分の一部
---------------------	----	-------	----	-------------------



鹿島市中心拠点再生地区(佐賀県鹿島市) 整備方針概要図

目標	大目標: 人とまちを結び、まちなかコミュニティを創造するまちづくり	代表的な指標	中心市街地来訪者数 (人/日)	800 (H24年度)	→	1000 (H26年度)
	目標1: 市民が利用し、集い、歩きたくなる都市の形成		空き店舗率 (%)	12.1 (H24年度)	→	12.1 (H26年度)
			中心市街地の満足度 (%)	18.4 (H24年度)	→	21.0 (H26年度)

